

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2771501158		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホームなごみ(2F)		
所在地	大阪市東成区中本3-17-1		
自己評価作成日	平成22年2月3日	評価結果市町村受理日	平成22年6月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日単調な日々を送りがちになるが、出来るだけいろんな刺激を受け、いろんな人とかわりを持ち自然に触れ合ったり、季節を感じたり出来るように外出の機会を多く取り入れて利用者様が楽しみをたくさん持てるように支援していく。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771501158&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771501158&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年3月24日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは、習字や音楽セラピーの先生の来訪を楽しみ、日々の掃除や食事の準備、シーツ交換など出来る事を一緒に取り組む事で、利用者は自分の役割として取り入れ日常生活に張りが出るように支援されています。季節に応じた外出や日帰りバス旅行に家族や協力医、訪問看護師の参加を呼び掛け安心して出かける事が出来ています。また、地域のふれあい喫茶や今まで通院していた歯医者などに出かけるなど、今までの繋がりを大切にしながら継続し、もっと多くの方とも関わりを持ちたいと考えています。また、職員同士の連携もよく取れており、皆で話し合う機会を多く持つ事で何でも言い合える関係が構築されており、家族や地域との関係をも大切にしながら、利用者と共に毎日楽しく笑顔で暮らせるように取り組まれているホームです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様、御家族様、職員または地域の方々の全ての人の尊厳を大切にする。	これまでの理念を見直し職員間で話し合い、法人の理念と共に利用者の意見を取り入れるなどして地域とのつながりを加味した各ユニットごとの理念を作りました。玄関や各ユニットに掲げ、理念について毎月の全体会議で振り返り確認合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の一員になり、地域の行事に積極的に参加しているところである。	自治会に加入して回覧板や地域の広報紙、運営推進会議などで情報を得ています。地藏盆や盆踊り、ふれあい喫茶などの行事に参加して交流に努めています。また、ボランティアの受け入れを予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は当事業所内では出来ていないが同地域内での講習会等の参加と共に地域にも発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2M会議を開催し、地域との取り組み方やレクリエーション等の意見を頂きながらサービスに反映している。	家族や自治連合会会長、婦人会、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2カ月に1回、開催しています。ホームから行事や利用者・職員状況などを報告し、参加者から活動内容に対する評価や助言、質問などを頂く有意義な場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の担当者との連絡をとり地域ボランティアへの協力を活用しようとしている。	地域包括支援センター職員にボランティアの受け入れをお願いしています。市の担当者とは、書類提出や申請時に来訪して、研修案内などはFAXでもらっていますが、相談や連絡を取り合うまでには至っていません。	書類の受け渡しだけでなく、日頃から気軽に行き来しながら顔なじみになりホーム状況を知ってもらう事から始めてみてはいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを常備し、職員に指導しており、対応を随時実施している。	フロア会議で身体拘束について話し合っています。ユニット入口は時間に応じて開けていることありますが、外部の侵入を防ぐ目的で施錠しています。家族には説明し同意をもらっています。また、外出したい様子を感じたら職員と一緒に散歩等に出かけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護実践者講習に参加し虐待について学び、他職員にも指導している。順次講習に参加できるよう取り組んでいる。		

グループホーム なごみ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にあんしんさぽーとを活用し、今後についても関係者との話し合いを続けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様及び家族様へ説明を行い、理解していただいた上で、了承して頂いています。又不安、疑問を持たれた時は詳しい説明を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を設け、利用者様、家族様、外部の方の意見、要望を承り対応させて頂いています。	日々一緒に生活する中で利用者との会話を大切に意見や要望を聞いています。また、家族には運営推進会議の際や面会を兼ね毎月の利用料を持参してもらう際に意見や要望がないかを聞いています。出された意見についてはミーティング等で話し合い対処し、手紙で改善策を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月全体会議を設け代表者も参加し、職員の意見や提案に限らず、疑問、不安など様々な事を話し合う機会を設けている。	毎月の全体会議に法人理事長も参加し、職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けています。また、管理者や各リーダーとは、何でも言い合える関係であり、常に話し合い、職員の意見やアイデアを運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金申請を行っている。新規職員の採用により残業も軽減されてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については、今後職員一人一人が課題を見つけ、学習し、勉強会を開催するよう進めていく。外部研修については、情報を集めできるだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1回/2ヶ月グループホーム交流会を地域内の同業者施設で順番に開催し、互いの施設間でのスタッフの現場研修等も計画中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に数回に渡り面談を行い、家族様及び本人様のアセスメントを行い、要望等を確認するように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ、家族様の様々な立場から、意見や要望を拝聴できるように対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の話を伺い、他職種からの意見も参考にした対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ、役割を持って頂いている。又食事を一緒に取ったり、ゆっくりと談話したりして過ごす時間も大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	旅行や外出等への参加を家族様へ呼びかけ同行して頂いている。外泊や外出なども随時して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当施設への面会は可能な限り時間制限もなく自由にして頂いている又本人様が希望された時には馴染みの人や場所へ職員がお連れしている。	地域のふれあい喫茶に出かけ知り合いの方に会う楽しみや友人の来訪などを大切にしています。また、以前住んでいたケアハウスや利用していた歯医者など個々の希望を大切に、一緒に出かけられるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来る限りフロアで過ごしていただき、スタッフが利用者様間の関係作りの架け橋になるよう心がけている。又レクリエーションに可能な限り参加して頂く事で楽しい時間を共有し、関係作りをしています。		

グループホーム なごみ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談していたが、他サービス利用の希望時にはこれに関しての情報提供等のフォローをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の自己決定を尊重しケアに努めている。困難な場合は、今までの生活歴や性格、趣味など家族様から情報を得て、出来るだけ本人様の立場に立ったケアに努めている。	ホーム独自のアセスメント表やフェイスシートを利用して利用者や家族から多くの情報を得ています。日々の会話の中で聞いた利用者の思いや希望、病院からの情報、職員からの気づきなどを介護日誌に記録に残し職員間での共有に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様及び家族様には十分な聞き取りを行い把握に努めている、必要に応じて在宅時のサービス関係者や介護支援専門員等に情報提供を依頼する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々本人様の状態を把握し、介護日誌及びグループホーム日誌等に記録し全職員が確認し、申し送りを確実にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアでミーティングを行い、必要に応じて家族様、関係者とも話し合い、計画作成するように努力している。	毎月家族の来訪時には希望を聞き、介護経過や特記事項を参考に介護計画を作成しています。必要に応じて協力医や訪問看護師の意見を聞きながら3カ月に1回見直しをしています。毎月モニタリング、評価をして全体会議やフロア会議で話し合い状況に応じた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録等を活用し、介護経過に残し定期的にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様のニーズに出来限り対応している例えば、入院時の付添い等。		

グループホーム なごみ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はしているが、十分な活用には至っていない。地域の消防所には2回/年消防訓練に参加して頂き指導、アドバイスして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の連携医療機関についての説明をし、今までの本人様のかかりつけ医との選択をして頂き本人様、家族様がどの様に医療を受けたいのかも聞き取りを随時行っている。	今までのかかりつけ医を継続できることを説明しています。協力医とは24時間連絡可能で、月2回の往診があります。また週3回の訪問看護、週1回の訪問リハビリ、訪問歯科の来訪、必要に応じて眼科への通院など利用者の状況に合わせて安心して医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の在宅看護師と日常の状態について、3日/週訪問、電話連絡にて指示を仰いでいる訪看申し送りにて記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には入院時の24時間付添いなど安心して治療できるよう対応している。入退院時には看護サマリー、介護サマリーを作り関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師、職員を交え、話し合いの場を設けて在宅患者家族面談記録簿に残し、随時見直し、再確認をしている。	入居時に看取りについての方針を家族に説明し同意をもらっています。定期的に家族の意向を書面にて交わし、その時の状況や希望があれば、主治医から家族に説明してもらい、訪問看護と協力しながら支援していきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてのマニュアル作成している。今後公的講習会に参加を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の消防所立会いによる訓練を通じて避難方法を職員に指導している。	年に2回消防署立ち会いのもと、昼想定で避難訓練をしています。リーダーは防火管理者の研修を受け避難経路の確認をしています。地域的に参加が難しく参加を呼び掛けるには至っていません。	夜間想定の実施や消防署が来たときに地域の方に参加してもらったり、運営推進会議で話題にしながら地域の協力を呼び掛けてはいかげでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員に日々丁寧な対応をするように指導している。	丁寧な対応や静かな口調を心がけ、無言でケアしないよう、会議やミーティングなどでも話し合い周知徹底を図っています。また、利用者に対する接し方10カ条を作り必ず目につくように介護日誌に張り付け確認しています。個人情報の記録物は鍵のかかる事務所の引き出しに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず聴く事を大切にして職員の考えではなく、利用者様に決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムについても可能な限りその人らしい、利用者様の望まれるペースで生活を送っていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容、美容訪問していただき、本人様の意向を確認しながら支援させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者様には食事の準備や片付けを手伝って頂く。	業者から配達された食材と献立を元に利用者と一緒に下準備や後片付けなどを行っています。行事での食事やおやつは利用者の希望を聞きながら利用者と一緒に買い物、準備などを行っています。また、職員は同じテーブルにつき同じ物を食べ楽しい時間を共にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体としては、食材業者に委託し、栄養バランス、カロリー管理を行っている。又栄養士指導のもと、個々の状態に応じて随時対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科による衛生管理をして頂いている。		

グループホーム なごみ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツの方でも日中はリハビリパンツ着用して頂き、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	排泄表を利用しながら状況を把握してタイミングを見ながら声かけや誘導をしてトイレでの排泄が出来るようにしています。また、むやみにおむつを使用せずリハビリパンツを利用しタイミングを計りながら自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては食材業者に委託しており、予防に心がけるとともに、おやつ等により、排便を促す食材を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望を優先し対応しているが、判断できない利用者様に関しては、声掛けしながら本人様の状態確認し気分良く入浴できるように努力している。	日曜日以外は朝から夕方まで毎日準備しています。柚子湯や入浴剤、個々のシャンプーなどを用意しながら楽しく入浴が出来るように支援しています。また、希望により、夜の入浴や同姓介助での対応を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の生活リズムを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品については変更時、あるいは疑問等がある場合は随時薬剤師、看護師に確認している。又副作用、用法、用量についても指導、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、音楽会、外食、外出などいろんな事に参加して頂きながら、その人自身の楽しみが見つけられる様支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望には出来るだけ柔軟に対応している。甘い物が食べたいと言う思いがあれば、ちかくのお店に出かけおはぎを召し上がっていただいたり、本人様の思いを見過ごさないように心がけています。	散歩や買い物、ドライブ、外食など利用者の希望に応じて日々出かけています。日曜日には法人から車を借りて歴史博物館などに出かけています。また、年に1回、協力医や訪問看護、家族も参加した日帰りバス旅行に出かけています。	



グループホーム なごみ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人様に管理して頂き、買い物等もして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り、本人様の希望に添えるよう援助させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月、ひな祭り、クリスマスなど季節感が採り入れやすい飾りつけをしています。又冬場は乾燥を防ぐ為加湿器で調整をとり、夏場は冷風が巡回するように、扇風機と併用して温度調節をしている	皆が集まるリビングは明るく対面式キッチンが備え付けられ食事の準備が状況が分かり、いい匂いが漂っています。廊下には歩行訓練が出来るように手すりが付けられひと休みできるように椅子が置かれています。またクリスマスツリーや雛飾り等を飾り、季節を味わうことのできる支援を心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内では御自分の席が決まっており、その場所が1番落ち着いて過ごされる場所になっている。わずかではあるがTVを見たり、スタッフと談話したりできるスペースもあり、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様の馴染みの物等についてはご持参して頂き、入居後も随時ご相談しながら本人様の意向に添えるように対応させて頂いています。	洗面台が備え付けられています。ベッドやテレビ、タンス、仏壇などを持参され家族や孫の写真を飾っています。来訪時にはゆっくりと居室と一緒に過ごせるように家族の希望でソファーを持ち込まれている利用者もいます。また、個人電話も引くことも可能であったり、携帯電話を持たれている利用者もおられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線について、注意して模様替え、家具の配置等に配慮しています。		